

令和2年度第1回南魚沼市総合教育会議 会議録

日 時 令和3年1月28日(木) 9時00分～10時25分

場 所 南魚沼市図書館 多目的室

出席者 南魚沼市長
林 茂男
教育委員会
教育長
岡村 秀康
委員
西野 仁、角谷 正雄、川島 亜紀子、須藤 文子

(事務局出席者)

市長部局

総務部長 石田 正利

企画政策課長 高橋 悟

企画政策課行革主幹 須藤 義昭、企画政策課企画班主事 青木 翔太

教育委員会事務局

教育部長 片桐 克巳

学校教育課長 関 浩二

社会教育課長 滝沢 一也

生涯スポーツ課長 西潟 一郎

子ども・若者相談支援センター長 阿部 正敏

学校教育課管理指導主事 小宮山 仁、田中 和徳

学校教育課指導主事 倉上 明、種村 啓子

学習指導センター指導主事 久川 寛

学校教育課学校庶務主幹 佐藤 丈夫、学校教育課施設主幹 貝瀬 好彦

協議事項 (1)教育基本計画の計画期間の延長に伴う教育大綱の変更について
(2)学校再編(石打小学校の開校等)について
(3)その他
・海外派遣について

事務局
(企画政策課長)

本日はお忙しいところ、ご出席をいただきまして大変ありがとうございます。

開会に先立ち、資料の確認をお願いします。

(資料 1、資料 1-別紙 1、資料 1-別紙 2、資料 2、資料 3 の確認)

それではただいまから、令和 2 年度第 1 回南魚沼市総合教育会議を開催いたします。初めに林市長から挨拶を申し上げます。

市長

皆さん、本日はご出席いただき大変ありがとうございます。本日は、総合教育会議ということで、平成 27 年から実施されており、市長が教育委員会を招集して、公の場で議論を行うことができるという会議であります。委員の皆様におかれましては、日頃より市の教育行政においてご尽力いただき、感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症をはじめとして、世相は賑やかではありますが、教育こそは悠久であります。様々なことが心配されますが、学校教育のみならず、社会教育も含めて、次の時代を担っていく子ども達にとっての教育が重要になると考えます。

各学校の感染症対策におかれましても、現場の職員の方には大変ご尽力をいただき、感謝申し上げます。また、消毒作業等の雇用対策についても、ご理解のうえ進めることができ、大変嬉しく思っています。

社会教育分野においては、自転車におけるまちづくりを進めているところでありますが、決して観光に限ったものではなく、市民全体の福祉の向上や様々なことに繋げていきたいと考えています。思いをめぐらすと、根底にあるのは人づくり、地域づくりに起因するものと考えています。

今年度は、子ども若者相談支援センターの立ち上げを行いました。来年度は、子育て支援のためのワンストップ型施設の立ち上げをし、さらに情報を集約して一体となって取り組む予定としています。

話はかわりますが、本日は市役所において、先般の大雪で発生した関越自動車道の立ち往生を基にした訓練を行う予定です。あの一件で、現場の意思決定力の不足、指揮系統の重要性を痛感しました。そこで学んだことを次に活かしていくことが重要であります。教育現場においても全く同じことが言えると思いますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

先ほど、会場まで駅前を歩いてきました。旧棟方志功アートステーションのスペースが空いていますが、駅前には中学生、高校生が多く歩く場所がありますので、街づくりの拠点施設を設けようと考えています。松井利夫さんという南魚沼市出身の大変成功された方がいまして、松井さんはふるさとの強い思いがあり、多大なるご寄付をいただきました。この地域をなにかで興したいという意味を持った方からの提案に基づいて、スペースを改修するというを松井さんの寄付金を活用して実現をしようと考えています。

そのような様々な状況、価値観が変化していく中で、変えてはいけない、悠久的な教育を皆様に重ねてお願ひしたいと思っています。

本日はよろしくお願ひします。

事務局 (企画政策課長)	<p>本日の出席者は、お配りの「出席者名簿」「座席表」のとおりでありますので、ご紹介を省略させていただきます。</p> <p>それでは次第に沿って進行させていただきたいと思えます。</p> <p>【次第3「総合教育会議の役割等」について、別添「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）」を用いて説明】</p> <p>次第4「協議事項」についての進行を林市長よりお願いいたします。</p>
市長	<p>さっそく協議に入らせていただきます。協議事項（1）「教育基本計画の計画期間の延長に伴う教育大綱の変更について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (教育部長)	<p>【協議事項（1）「教育基本計画の計画期間の延長に伴う教育大綱の変更について」説明】</p> <p>（資料1、資料1-別紙1、資料1-別紙2を用いて説明）</p>
市長	<p>何か質疑はありますか。</p> <p>〈質疑なし〉</p>
市長	<p>既に教育委員会において教育基本計画の計画期間の延長は決定されているということですので、大綱の変更については私の同意をもって決定とさせていただきます。</p>
市長	<p>それでは協議事項（2）「学校再編（石打小学校の開校等）について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (教育部長)	<p>【協議事項（2）「学校再編（石打小学校の開校等）について」説明】</p> <p>（資料2を用いて説明）</p>
市長	<p>市長に就任してから、いくつかの学校が統合しましたが、学区再編ではどちらかの学校に統合することがほとんどであるため、通学についての問題が多くあります。遠方になればバス通学となりますが、徒歩通学について申し上げますと、秋にはクマの出没、冬は大雪と非常に危険がつきまっています。学校現場、委員の皆さんも含めて、安全な通学路の確保をお願いしたいと思います。</p> <p>市長としてたくさんの要望をいただきますが、最も多いのが歩道設置についての要望です。しかしながら、道の拡幅や歩道を設置するということは簡単なことではないのが現状です。仮に、設置しようとした場合、現在通学している子ども達が成人するくらいまでの期間がかかってしまうということになります。そのような中で、いかに安全に通学ができる環境を整えてあげられるか、例えば市民バスを併用するなどを考え、統合する学校の不安を解消し、教育現場だけではなく地域に寄り添いながら検討する</p>

必要があります。

一方で、自転車におけるまちづくりという視点で申し上げますと、歩道のみならず自転車道を確認するという考え方もあります。ユニークさを持ちながら、様々な見地から考えていただきたいと思います。

川島委員

私が委員になってから、いくつかの学校の統合を見てきました。統合する地域の方たちの意見を聞きながら順調に進めていくことで、地域に馴染む学校が作り上げられたと思います。そもそも、南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会の答申が平成 20 年に行われたものと記憶しています。10 年以上経過した今、それらを見直しながら進めていく必要があると感じます。

通学時の安全確保については、保護者の方からすると特に慎重に検討してほしいという気持ち強い部分だと感じています。児童数が減少する中で、子ども達が一人で登下校する姿も見られるようになりました。バス通学等も流動的に取り入れていければ良いと思いますし、同時に地域の意見を吸い上げながら検討していく必要があると思います。

〈以上で意見は終了〉

角谷委員

川島委員がおっしゃったように、通学時の安全確保は最優先事項であると思います。南魚沼地域は地域の育成会や子ども会などから登下校時に見守り活動をしていただいております。地域の方が子どもを見守る力が根付いている地域だと感じています。しかし、統合することによって、必然的に通学範囲も広がりますので、なかなか見守り切れない部分もあると思います。例えば、バス通学をするにしても、バスの駐車場で見守りをさせていただくとか、引き続き地域の方からも応援を続けていただけるような組織づくりや学校と地域との支援体制の構築を考えていきたいです。

市長

協議事項 (3) 「その他」について事務局から何かありますか。

事務局

(教育部長)

教育委員会部局から「海外派遣の実施状況と今後の予定について」説明させていただきます

【協議事項 (3) 「その他 (海外派遣について)」説明】

(資料 3 を用いて説明)

市長

韓国総領事の方が異動により変わられて、この前挨拶をしてきました。引き続き良好な関係と新型コロナウイルス感染症が収束したら積極的に派遣事業に協力しますと言ってくださいました。

また、ニューヨークに関しても、ニューヨーク新潟県人会の大坪会長と連絡を取り合いながら現況などを共有しているところです。

その他、市長部局から何か意見はありますか。

事務局
(企画政策課長)

市長部局からはありません。

市長

協議事項(2)での質疑において、川島委員の発言にありますように、市は南魚沼市立小・中学校学区再編等検討委員会の答申に基づいて学校の統合をしてきたところです。その答申書の、「IV 学区再編の手法」において、「地域とのつながりを留意する観点から、小学校については旧町村、中学校については旧町の境界を超えた統廃合は行わないことを原則とする」という方針とされてきました。しかしながら、当時の状況とは随分変化してきていて、「これまでの統廃合のあり方で良いのだろうか」という声をいただくことが多くなってきています。前年度の総合教育会議において、私自身もそのような発言をしたと記憶しています。今後の方向性として、教育委員会において様々な知見からご検討をお願いしたいと思います。

もう一点、社会教育的な分野で、生涯スポーツ課という部署があります。当市にはモンスターパイプがありますが、本来は新潟県全体のアスリートの育成、ひいては全国のアスリートを育成するという高邁な観点から新潟県と生涯スポーツ課で建設を進めたという経緯があります。新潟県に対しては、建設するだけでなく、維持管理も発生しますという事を主張してきましたが、現在は南魚沼市で管理しているのが現状であります。その時に思ったのは、担当部局の問題です。新潟県は平成30年度から、スポーツ課を独立させ、スポーツ施策については知事部局で所管することとしました。

スポーツ施設などに関しては、これまでの教育的な範疇のみではなく、政策的な色合いが強いものでもあります。当市においても、生涯スポーツ課を中心に取り組んでいる健康ポイントや自転車によるまちづくりなど、縦割りではなく横断的に進めている事業であり、まちづくりの根幹をなす事業であります。

一方で、市民に近い社会教育的な施設での市民講座などについては、これまで通り継続的に進めるべき事業であると思います。生涯スポーツ分野の所管について、私と教育委員会とで意見を共有しながら、今後のテーマとして検討をしていく必要があると思います。

角谷委員

文部科学省において、小学5、6年生で教科担任制(英語、数学、理科)を設けるという話が出ています。教科担任を配置するとなると、学校規模の問題が今後出てくると想定されます。次の統合を迎える時には、教科担任を配置できるような規模を維持していけるように考えていかなければならないと思います。例えば、専任で教科担任を配置できないような小さい規模の学校が多くなると、他の学校と併任せざるを得ない状況となってしまう、子ども達への教育の効果や関わり方、学校全体の雰囲気が変わってくると思います。ですので、今後統合するときには、子ども達の教育環

境にとってどのような規模が適正なのかを市として考えをまとめていく時期がきているのかと思います。

また、市長が言われた社会教育のスポーツ分野についてですが、世界のトップレベルを目指す専門性の高いスポーツ施設と、一般の市民が使用する施設とで共用できる施設とできない施設とで区切りをつけることも必要があると感じています。専門性の高いスポーツ施設となりますと、使用する人口や必要経費も異なってきますので、それなりの覚悟をもって建設、維持管理をしていかなければいけません。良い施設を作って終わりではなくて、トップレベルを目指す子ども達を育てていかなければいけませんので、アスリートを育成するという一貫した流れをつくるのが大切だと思います。施設の管理などは施行者が管理することが得意な部分が多いですので、教育部局と市長部局での分けをする必要もあるのかなと思います。

西野委員

アメリカでは、コンピューターの普及など、近代的な事柄が進んでいくなかで、子ども達にたくましく成長してもらうために、スポーツ政策を展開しました。また、私はオランダに滞在していたことがあるのですが、車道の両サイドに広い自転車道が整備されていまして感動したことを覚えています。

このように様々な形でスポーツの文化は形成されていますが、私どもの南魚沼市総合計画においても「2-7 地域に根差した野外・環境教育の推進」について掲載しています。自然に親しむということもさることながら、「Learning By Doing」何かを経験することによって学ぶんだということが、アウトドアや野外活動、スポーツの基本的な精神だと思っています。

バス通学をすることで子ども達は何を失ったかということ、帰り道に道草をすることがなくなりました。棒きれをもったり草花をめでたりということがなくなりました。そういったものが失われているのであれば、補完する事柄が必要となりますよね。そうであれば、野外活動などを重視することが必要であると思います。

結論から申し上げますと、事の道理がわかる人を育てていきたい。教育を受けることによって、どのような人になりたいのかは個人の自由ですが、我々は社会が安定するような教育を作っていきたいと思っています。教育の合理化やデジタル化など、国が先走っているなど感じることもありますが、市長には調和をお願いしたいと思っています。

須藤委員

市長が常々おっしゃるように、地域づくりは人づくりであるということが最大の課題でありますし、教育行政においても行きつく先は同じだと思います。新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中で、子ども達が委縮してしまっている感じを持っていましたが、学校現場の知り合いから「子ども達は知恵を出し合いながら頑張っているという」という声を聞くと、ほっとするところです。いつ収束するという目途がたたない中で、子ども達が夢を持ちながら、自己実現に向けて生きていくためには、大人

が委縮せず、幅広い考え方を持つことが重要です。この危機的な状況をどう受け止めて、どのようにして困難を乗り越えようとしている姿こそが、子ども達にとって生き様として示すことができると思いますので、みなさんと乗り越えていきたいと感じました。

私が委員に任命された後、教育基本計画の冊子をいただきました。また、南魚沼市に異動された教員にも渡されているとお聞きしました。多方面の方々から知恵を拝借しながら作り上げられた素晴らしい計画を、机上のプランで終わることなく、携わる一人ひとりが計画の実現に向けて懸命に取り組めるように教育委員会が働きかけることが大切だと感じました。

市長

その他意見等がありますか。

〈意見なし〉

それでは以上をもちまして、議事を閉じさせていただきます。大変ありがとうございました。

事務局

(企画政策課長)

林市長ありがとうございました。最後に閉会の挨拶を岡村教育長からお願いいたします。

教育長

本日は大変ありがとうございました。教育長として初めて参加させていただきました。林市長を中心にして、教育大綱の変更について決定してもらいました。そして、学区再編についてご意見をいただきました。

教育基本計画については、延長するだけではなく計画したものを具体的に実現するという事、それを踏まえて新たに作成している後期基本計画についても計画から実現へ移行できるように考えていかなければいけないと感じました。

学区再編については、平成 20 年の最終答申に従って進められてきましたが、次の学区再編に向けて、市民の声をよく聞きながら見直していく形で進めていきたいと思います。地域の様々な団体がありますので、つながりを大切にしながら検討したいと思います。

また、生涯スポーツ課の位置づけ、立ち位置を委員の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。様々な観点からご意見をいただくことが、南魚沼市の教育を次のステップに進められるきっかけとなります。

今、教育改革の流れが非常に加速しています。何を変えなければいけないのか、何を変えてはいけないのかをしっかりと見極めながら、皆さんと力を合わせて、南魚沼市らしい教育を作り上げていきたいと気持ちを新たにしたところであります。本日の会議を大事にしながら、過ごしていきたいと思います。本日はありがとうございました。

事務局

(企画政策課長)

岡村教育長ありがとうございました。以上で令和 2 年度第 1 回南魚沼市総合教育会議を閉会いたします。大変ありがとうございました。